

鬼も喜ぶ地域の祭りに

市民も参加で50店舗

心身のハンディを問わず働く場を提供しているNPO「おにの家」は25日「第14回おにっこまつり」を熊谷市板井の「おにっこハウス」で行う。手作りのみそや地卵などの自主製品にファンが多く、まつりにも例年1000人近くの人が集まる。施設の枠を超えて、地域のまつりに成長している。

「おにの家」は1987年に、東を願って、村人と仲良くなりたい松山市の障害者施設で働いていた鬼が出てくる童話「泣いた赤鬼」が尾島茂さん(57)と2人の障害者ら「おにの家」の名前を取った。が、江南町(現・熊谷市)板井に小さな自主製品のみそは地場産の大豆なみそ屋さんを創業したのが始まり。自主製品のみにして、昔ながらのノーマライゼーション(障害者がある人が地域の中で普通に暮らす)とい言葉が、まだ一般的でなかった時代、地域に溶け込むこと



昨年「おにっこまつり」から。創作太鼓も毎年人気を集めている(NPO「おにの家」提供)

熊谷の障害者施設「おにの家」25日に「おにっこまつり」

「おにっこまつり」は今年で14回目。一般市民や企業の参加も年々増え、今年は50店舗に。地域の和太鼓やミュージシャン、キッズエアロビクスの上演のほか、地元のを塩焼きにする釣りの愛好家グループ、地元農家なども出店。近所のお年寄りや小学生も大勢遊びに来る。尾島さんは今では地域の皆さんの一大交流の場にもなっている。この出会いをきっかけに、輪を広げていきたいと話していた。

おにっこまつりは25日午前11時から午後2時(雨天の場合は5月2日)。

問い合わせは、おにっこハウス(048-536-1344)へ。

水テーマに市民講座

坂戸市環境学館いすみ 2カ年で全20回開催

坂戸市環境学館いすみ(坂戸市泉町、河合清館長)は、5月から2012年3月までの2カ年にわたって開催する水テーマにした市民講座「さかど台地水の恵み塾」(全20回)の受講生を募集している。地元住民の

- 5回(9月)「高麗川の昆虫」(同、環境専門調査員の神尾宏司氏)▽第6回(10月)「浅羽ビオトープ」(同、高麗川ふるさとの会会長の三浦輝夫氏)▽第7回(11月)「浅羽ビオトープ」(同、同会の坂口稔氏)▽第8回(11年1月)「鶴舞川の源流を調べる」(同、未定)▽第9回(2月)「越辺川の白鳥」(同、鳩山野鳥の会会長の鈴木伸氏)▽第10

小学生対象にスク

